



原田牧場 Note

page 18

我が家の芝生の庭に5年前に建てた従業員住宅があります。近場で求人を出してもなかなか応募がない、応募があったタイミングで住居が押さえられていないと通勤できない、などの問題解決のために考えました。町の人口もどんどん減っていく中で、道外の人に来てもらう＝移住してもらえれば一番いい、という結論になって、そうなると地域に馴染んでもらうために我々の手伝いも必要だろうし、アパートの一階をコミュニケーションスペースとして住人同士で会を催すのも良いだろうと話も膨らんで希望どおりの住宅が建ちました。昔は、家主は立派な家に住んでいるのに従業員はプレハブに住んでいることが多くて（農家も余裕がない時代だったと思いますが）、私としては、安心できる住環境で仕事後はゆっくり休めて、この地域で働く素晴らしさにも目が行き渡るような生活を送ってほしいという気持ちでした。従業員も無事決まり、誰かの誕生日やクリスマスには集まって会食し楽しくやっています。話題が仕事のことになりがちですが、大家の時はそれ以外の話をしたいなと思っています。

異変があったのは去年の夏、共用スペースの掃除に行った時、従業員の部屋の前から微かな異臭がしました。以前は芳香剤の香りがしていたのに。…考えてみると、何ヶ月もゴミステーションにゴミを出していないかも？以前は細かく分別もして出していたし、仕事場の荷物置き場もきちっと整頓する子だったので、まさかなあ、という気持ちでした。その半年前、高騰した電気代の節約に灯油ストーブを焚いていると聞いていたのが思い浮かんで、大家の想像でしかないけど、まさかが現実だったら…とゾワっとしてきました。大家は阪神大震災経験者、北海道も地震が多いので、火災を案じて住宅はオール電化にしました。

入居時にその経験を従業員にも説明していて、もう夏だけど冬場どんな風に灯油ストーブを焚いていたか確認させてくれ、と話して部屋に入りました。積み上がったゴミを押しながら開けた扉の先は、足の踏み場もなく物が混在して散らばっている状況。玄関には灯油のポリタンク。消火器は部屋の外。火災が起きた時にどうなるか！災害時大家はすぐには助けに来られないかもしれない、自分で身を守る生活ができてないことに怒っているよ、と伝えました。片付けについては向き不向きがあるでしょう。無理にやらなくても良いけれど、以前は出来ていたゴミ出しをしなくなったのはなぜでしょうか？と聞くと、仕事が終わって部屋に帰ると何もやる気がしないんです。と。食べ終えたコンビニ弁当の容器が枕元に置いてある光景が全てを表していました。年の初め、部屋が荒れ始めたころ牧場の父さん母さんの引退の準備、家族の入院もあって大家は多忙を極めていました。もう5年も働いてくれているのでペースはつかめているだろうし自分で成長していく時期だと考えていました。これまでみたいに一緒にいて教えるということは少なくなったけど、しっかり頼むね！なんて言ったのがプレッシャーだったのかもしれませんが。従業員との距離感＝仕事以外は干渉しすぎない、部屋の使い方はその子の自由、と考えていた大家ですが、原因を聞くと放っておくわけにはいかない深刻さを帯びました。

じゃあ、まずゴミ捨てよう！この部屋では休まらない、メンタルやられる。何日かけて従業員一人で仕分けし運び出したあと、掃除はプロ4人がかりで5時間かけてやってもらいました。毎日お仕事頑張ってるんですから掃除ができてなくても全然恥ずかしくないですよ！とプロたちに言ってもらい、ピカピカになった部屋を見てようやく従業員の顔に血色が戻ってきました。稼いだお金を使って不得意なことはプロに言ってもらい快適に暮らす手法もあると学びました。従業員は口数が少なく自分から話しかけられない性格なのでこちらが汲み取って話をしないとイケない関係性です。悩みがあっても言えない、こちらが気づくまで最悪の事態が続いてしまうこともある。今思えば部屋が荒れ出した頃から週に3,4日部屋にいないことが増えました。昼間、牛の分娩があってヘルプを頼みたいと思ってもいない。夜もいない。正確には部屋に居られなかったのでしょうか…

休み明けも疲れが残っている顔をしていたし、ちょっと注意したら目に涙をためることも。全部腑に落ちました。夏の暑い日、掃除に行って良かった。大家の鼻が犬並みの嗅覚で良かった。これからも干渉しすぎない距離感でいるつもりですが、ピンチのサインは見逃さないように。と心に決めました。

その部屋でもうひとつ印象に残っている光景があります。積み上がったゴミ山の頂に登山用ヘルメットの箱が乗っていました。そんな状況でも大阪人は心の中でツッコミを忘れません「ゴミ山登頂、やったー！ちゃうぞ 笑」後で、ヘルメットあったけどあれは？と聞いてみると、（部屋に居られなくなり）新しい趣味を始めたとのこと、大雪山系に登山に行ってるとな！読書だけが趣味だった子が登山！！災い転じての最上級やん。と嬉しくなりました。大雪山の日本一早い紅葉写真を見せてもらったり、近場の山と一緒に登りに行ったりもしました。ただ、山に行く時も一人で黙って行ってしまうので、わざわざ行き先を言わなくてもいいから、万が一用にアパートの自室ドアの内側に行き先をメモして貼って行ってね、というルールを考え出しました。良い距離感で危機管理もできる手法です。

災い転じてはまだまだ続きます。きれいになった部屋をキープするために今年から家事代行を頼み始めました。2ヶ月に一度、2時間5千円で掃除してもらいたい放題のサービスです。これも一緒に始めて我が家までピカピカ、お掃除のプロの技術に感動です。仕事をがんばったあとは、居心地のいい部屋で自身を充電、そしてまた牛さんのお世話に張り切って出かける。流石の大家も啞然とする大事件でしたが、好循環させることができました。

短信にも書きましたが、もの言わぬ椿の挿し木の成長に、私自身、そして従業員の成長を投影するような気持ちでいます。手助けはできても、咲かせるのは椿自身。ここでどんな花を咲かせるのか、待つ時間も楽しみです。

筆者 原田 希

1973年 大阪府吹田市生まれ

2006年 酪農家との結婚を機に北海道標茶町へ

2017年 北海道農業士に認定

北海道指導農業士の夫とともに

新規就農者の支援や女性農業者向けの勉強会の

お世話係を担当

